行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒152 東京都目黒区大岡山２－１２－１
東京工業大学 工学部 繁桝研究室
発行 理事長 水野 欽司
題字 林 知己夫
編集 杉山 明子

文献の顔と学会の顔

村上征勝

「文は人なり」とは言語学者ピエール・ギローの言葉である。もし文章に人それぞれ固有の特徴があるならば、それを計量的に把握することによって、文献の真贋の判定や著者の特定が可能になるのではないかと考えたのは、論理代数の創始者ド・モルガンである。彼のアイデアは50年後、シェクスピア＝ベーコン論争(シェクスピアのものとされる戯曲は、F.ベーコンが書いたのではないかという論争)の解決を試みた研究においてついに実現された。1901年のことである。その後、文学、哲学、政治学などのさまざまな分野における重要な文献の疑問を解決するために、計量分析が試みられてきた。

プラトンの「第七書簡」、旧約聖書の中の「イザヤ書」、新約聖書の中のパウロのものとされる14通の書簡、マーク・トウェーン作といわれる「Q.C.S.レター」、米国憲法の解説書として知られる「連邦主義者(The Federalist)」、ノーベル賞作家ショーロホフの「静かなドン」等、諸外国に多くの研究例を見る。

しかしながら、我が国においてはようやく研究の端緒が切られた段階である。それは、過去に安本美典氏による「源氏物語」の著者に関する先駆的な研究はあったものの、日本文は英文のように"分ち書き"されていないという言語自体の特殊性と、計算機による日本語処理が可能になったのは比較的最近であるという事情による。

私は15年前から日蓮遺文を中心に文献の計量分析の研究を続けているが、文献の計量分析はつくづく難しいと思う。同じ人でも、書くときの気分、状況によって文章は変る。しかし、それでもなお何かその人の文章を特徴づけるものがあるはずであり、それが何かを見い出すことが必要になる。それはあたかも泣き顔、笑い顔、怒った顔など同じ人間の異なった表情の中から、その人間の顔の特徴を見い出すことに等しい。

多くの文献が示す異なった顔から、どのようにして書き手の特徴を見い出せばよいのか、研究すべき事はまだまだ多い。文献の計量分析はこれからの分野である。

ところで、話は変るが文献にも顔があるならば、学会にも顔があるのではないだろうか？行動計量学会が発足して20年になろうとしている。おそらく発足当時本学会ははつらつとした活気と自信に満ちた若々しい顔であったに違いない。さて、20年後の現在どのような顔になっているのであろうか？円熟味を増し、より一層活気と自信に満ちた顔になっているのであろうか。言うまでもなく、学会の顔は我々学会員ひとりひとりが作り上げるものである。多くの学会員の方々の欧文誌への投稿をお願いする次第である。

(むからみ　まさかつ、日本行動計量学会理事、欧文誌幹事長)

第２０回大会の開催について

日本行動計量学会の第20回大会を1992年９月21日(月)、22日(火)、23日(祭)の３日間にわたり、東京工業大学で開催することになりました。坂元昂教授を実行委員長として、計16名の実行委員会の陣容も決まり、大会の準備を始めております。今年度は20回という記念すべき筋目の大会にあたり、興味深い企画をいろいろと計画中です。たとえば、人文社会科学における計量のフィロソフィーを考えなおしてみること、実行委員の専門分野の多様性に鑑みて、社会工学、経営工学、教育工学、建築・土木等における行動計量学的手法の展開等が考えられています。このために、特別セッションの枠をひろげ発表数を多くするつもりですので、なにか特別セッションの企画がありましたら下記住所までお知らせ下さい。 秋のことでまだ先の話ですが、新しいスケジュール表で是非９月２１、２２、２３日の３日間を行動計量学会のために予定して下さるようお願い致します。

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学 工学部教職学科目
繁桝研究室 日本行動計量学会 第２０回大会事務局
Tel. 03-3726-1111 (3240)　Fax. 03-3729-1453(教職共通)
kshigema@cc.titech.ac.jp.

『小グループ研究会』の募集について

運営委員会では、学会の研究活動活性化の一環として、小グループ研究会を以下の要領(昭和５８年度に決まった小グループ内規による)で募集いたします。若手の会員も遠慮なく積極的に応募されることを期待いたしております。

1. 研究会発足を希望する会員は、申請書を運営委員会に提出してください。
   申請書の内容は、(イ)研究会名、(ロ)おおよその参加人数と代表者、(ハ)研究会の連絡先(住所・電話・氏名)、(ニ)研究会発足に当たっての趣意書(400字２枚程)
1. 申請を受けた運営委員会は、すみやかに検討に入り、承認の有無を代表者に連絡いたします。承認された研究会については、その発足を会報で報告します。
1. 承認された研究会には、学会からの運営費として、年間若干額の連絡費(研究会案内のコピー代・郵送費等)、会合時のお茶代等の補助がでます。金額については規模等を考慮して運営委員会で検討いたします。
1. 承認された研究会には、その研究会活動を会報で簡単に報告していただきます。
1. 研究会の活動期間は、原則として２ヵ年を限度としますが、さらに運営委員会の承認を受ければ、２年間の延長が可能です。

申請先：〒153 東京都目黒区駒場2-19-23 大学入試センター研究開発部気付
日本行動計量学会運営委員会委員長 岩坪 秀一

学会賞候補者の推薦を

現在、第７回学会賞受賞候補者を選出する準備を行なっています。皆様の身近な会員の中に適当な候補者がありましたら、事務局まで文書でお伝え下さい。

[記載事項]

①推薦対象となる賞の名称(功績賞または優秀賞)

②候補者の氏名・所属

③その候補者の業績の内容(論文の題目・氏名・巻号、著書・その他の刊行物の名称・発行所・刊行年など)

④推薦者氏名・印

[様式] 推薦候補者ごとにＢ５版一枚

[期限] 平成４年５月３１日

[送付先]〒152 目黒区大岡山2-12-1
東京工学大学工学部 繁桝研究室
日本行動計量学会事務局

なお、学会賞の選考方法については「会員名簿」79-80ページにあります。

会議記録

★ 第４回理事会

時：平成３年８月28日
所：名古屋大学
出席者：水野理事長ほか17名

1. 次回大会開催校について
第20回大会開催校については東京工業大学に依頼することが了承された。
2. 学会賞委員長を選出した。
3. 外国人会員について
会員は日本人に限らず外国人でも良い。ただし、会費の納入は円とし、英訳などの特別なサービスは行わない。

★ 第５回理事会

時：平成３年10月28日
所：大学入試センター
出席者：水野理事長ほか９名

1. 第20回大会の準備状況について報告があった。
2. 正会員11名、準会員２名の入会申込があり、全員承認された。
3. 「第2回ファジー論理と神経ネットワークに関する国際会議」と「第８回ファジーシステムシンポジウム」の協賛を了承した。
4. 小グループ研究活動を復活しその実施方針の策定について運営委員会に依頼した。
5. 各種委員会の報告があった。

★ 第１回刊行物委員会

時：平成３年８月１日
所：林知己夫事務所
出席者：林委員長ほか４名

1. 行動計量学シリーズの刊行について、これまでの経過報告が行われた。
2. 今後の方針・著者への依頼について話し合いが行われた。

★ 第２回刊行物委員会

時：平成３年８月29日
所：名古屋大学
出席者：林委員長ほか３名

1. 著者への依頼について話し合いが行われ、93年秋ごろまでにシリーズを発行できるように、著者各位へ依頼することが決定された。

★ 第３回刊行物委員会

時：平成３年９月28日
所：林知己夫事務所
出席者：林委員長ほか３名

1. 著者への依頼の確認が行われ一応１０月末には朝倉書店の方に決定結果を通知するという方針が打ち出された。
2. 朝倉書店の方から、今年度中に著者宛に執筆依頼書を出してもらうことが決定された。

会員による著書一覧 （２） 1991/3-10

1991/ 3：大串健吾・中山剛・福田忠彦：画質と音質の評価技術：昭晃堂(テレビジョン学会編)

1991/ 4：川竹和夫編：異文化のなかのニッポンーアジアのメディアは日本をどう映しているのかー：二期出版

1991/10：澤田久義・寺田良一・三浦耕吉郎・足立清史訳：「環境・エネルギー・ 社会ー環境社会学を求めてー」(C. R. ハムフェリー/F. H. バトル著)：ミネルヴァ書房

会議記録

★　第１回運営委員会

時：平成３年８月２９日(木)
所：名古屋大学
出席者：岩坪委員長ほか８名、事務局

１．海野委員からシンポジウム等活動の基盤とするため、東北地区の会員名簿を確定すべく調査中との報告があった。
とくに最近東北地区に移った会員を学会事務センターを通じて調べることになった。

２．シンポジウムは、懸案のものが幾つか残っているが、２名程度責任者を決めて企画を任せること、とにかく中断しないで継続すべく努力すること等の意見が出され、具体化をはかることとした。

３．東京中心ではなく、地方の活動も重視して支援していくこととした。

４．学会活動の活性化を計るためには、やはり研究グループを組織して、実質的な研究成果を出していかなければならない、との意見が出され、当面文部省科学研究費補助金の申請、統数研との共同研究等の可能性を探ることとした。

★　第２回運営委員会

時：平成３年９月２７日(金)
所：大学入試センター
出席者：岩坪委員長ほか９名

１．調査法関係の研究活動を盛んにするため、文部省科学研究費申請などを杉山委員が中心に企画することとした。

２．平成４年夏を目途に、合宿形式のセミナーを村上委員が中心となって企画することとなった。

３．本学会員の関心をひく研究集会を会報に積極的に載せることとした。　柏木委員および岩坪委員長から近々行われる研究集会の紹介があった。
(会報５４号に掲載済み)

４．シンポジウムは、運営委員全員が３年の任期中に、一つは必ず企画することとした。
当面、言語関係(米田、杉戸委員)、データ補正(柳原委員)、ストレス(林委員)等の候補があがった。

５．小グループ研究会を復活してはどうかとの意見が出され、理事会に提案するとともに、具体的検討を進めることとした。

★　第３回運営委員会

時：平成３年１１月１１日(月)
所：大学入試センター
出席者：岩坪委員長ほか７名、事務局

１．調査法関係の文部省科学研究費申請は今年は見送り、計画を十分練って、次回申請をめざすこととした。

２．シンポジウムは、平成４年３月までに開催すること、平成４年５月ごろを目途に林委員がストレスをテーマに計画を進めることとなった。

３．理事会の決定をうけて「小グループ研究会」を会報で募ることとなった。研究活動資金も本学会以外からの道を探ることとした。

会員数

(1991年12月24日現在)

名誉会員	１名
正会員	１、０１３名
準会員	５３名
賛助会員	２６名

協賛する研究集会のお知らせ

★第８回ファジーシステムシンポジウム－人間とファジー理論の統合：1992/5/26-28：広島市中区広島国際会議場：問合せ：広大工学部長町三生 TEL.0824-22-7111 (内3481)

★第２回ファジー理論と神経ネットワークに関する国際会議
1992/7/17-22：福岡県飯塚市九州嘉会館：問合せ：(財)ファジーシステム研究所 山川理事長 TEL.0948-24-2771

学会誌投稿論文の募集

年２回発行の学会誌、和文・欧文誌では投稿をお待ちしております。

投稿論文は田栗和文誌幹事長(千葉大)、村上欧文誌幹事長(統数研)あてにお送り下さい。

編集後記：

会員が本を出版した時には、発行年月・著者・書名・出版社を、会報編集(Fax.03- 3262-8806)までお知らせ下さい。*(め)*